



研究・留学費 の支援を拡大 しています!

平成25年度
小児科医育成・支援事業 結果報告

(詳細2面)

“こどものアレルギー疾患治療の最前線”
市民公開講座のお知らせ

(詳細3面)

◆ 特別寄稿

小児医学の国際競争力を高めるために

我が国の小児医学の国際競争力を高めるためには、まず若手医師が自らのキャリアパスを国際的な視野で考えることができるような環境が必要です。また、国内で行われている優れた基礎・臨床研究の成果がしっかりと海外に発信されることも重要です。研究では国際競争が前提であり、その質は国際評価に直結するものです。

当財団の事業も5年目を迎えました。小児医学に関わる研究の助成、海外留学のサポート、優秀論文の表彰など、いずれの事業も多くの方々からの資金援助に支えられ順調に運営されてきております。このたび、選考委員長として審査に関わらせて頂き、非常に多様な研究分野で、多くの若手医師が研鑽を積まれておられることを実感しました。これらの優れた研究者たちが国際舞台で評価される機会を得ることが、我が国の小児医学の国際競争力向上に不可欠です。逆に、我が国の小児医学の国際化がさらに推進されれば、若手小児科医が、その実力や実績に見合った活躍の機会を国際的な場で得やすくなると思います。

基礎研究の臨床応用が加速度的に実現されている現在、基礎研究領域との連携は不可欠です。小児医学に限らず、若手医師が多様な課題に対して自然科学的な視点から興味を持てるように、基礎から臨床までを包括する“循環型”の研究環境を提供すべきです。当財団の研究支援事業がその一助となることは間違いないと思います。

研究マインド溢れる新進気鋭の若手医師が、高い国際競争力をもった高度な小児医学を牽引していくことを期待しております。



慶應義塾大学医学部小児科
主任教授

高橋 孝雄

平成25年度 研究助成金・海外留学フェローシップ交付対象者、アワード受賞者

平成25年度交付対象者・受賞者が下記のとおり決定いたしました。

研究助成金

(1) 小児科領域全般研究事業

青木 洋子	東北大学大学院医学系研究科・准教授	スーナン症候群と類縁疾患の遺伝子診断体制の確立とその病態解明
今井 耕輔	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 小児・周産期地域医療学講座寄附講座・准教授	放射線感受性高IgM症候群原因遺伝子の同定
村上 真理	カリフォルニア大学アーバイン校ポスドク研究員 (大阪大学大学院医学系研究科小児科学)	食習慣に応じたリプログラミング機構の解析： メタボリック症候群の予防と治療法の確立に向けて
石井 智弘	慶應義塾大学医学部小児科学教室・専任講師	内因性ステロイドホルモン産生制御機構下における steroidogenic acute regulatory protein の機能解析と先天性リポイド副腎過形成症の副腎・性腺リモデリングの病態解析
松木 亨	愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所 発生障害部・研究員	神経極性を制御するLKB1-Stk25シグナルが自閉症発症機構に果たす役割の解明
三橋 隆行	慶應義塾大学医学部小児科学教室・専任講師	神経細胞数の増加に伴う大脳皮質の肥厚化が高次脳機能に与える影響の解析

(2) ジャパンワクチン感染症及び感染症予防ワクチン研究事業

高梨 さやか	東京大学医学部発達医学教室・助教	Whole genome analysisによるロタウイルスワクチン導入移行期における 同ウイルスの遺伝子学的特徴の解明
中山 絵里	国立感染症研究所 ウイルス第一部・研究員	日本脳炎ウイルス流行株の把握と病原性・ワクチン感受性評価系の確立
小原 拓	東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 予防医学・疫学部門・講師	小児におけるインフルエンザワクチンの有効性と安全性の評価
大槻 紀之	国立感染症研究所ウイルス第3部2室 主任研究官	風疹ウイルスワクチン株の温度感受性を規定する分子生物学的基盤の解明
田中 美幸	信州大学医学部小児医学講座・特任研究員	水痘・帯状疱疹ウイルスに対する、非生ワクチンの開発
山元 佳	国立国際医療研究センター 国際感染症センターフェロー	新生児に対する風疹ウイルスPolymerase Chain Reaction 検査 及び風疹IgM抗体検査による先天性風疹感染の網羅的解析

海外留学フェローシップ

(1) 日本イーライリリー海外留学フェローシップ

藤岡 一路	神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学分野医学研究員	ヘムオキシゲナーゼ-1 制御に基づく新生児重症黄疸に起因する発達障害の予防
中山 東城	東北大学大学院医学系研究科 発生・発達医学講座 小児科学分野医学研究員	発達障害を伴う小頭症に対する新規責任遺伝子の同定

(2) ジャパンワクチン海外留学フェローシップ

内村 暢	横浜市立大学附属市民総合医療センター 小児総合医療センター・指導診療医	インフルエンザウイルス、ワクチンにおけるインフラマゾームの活性化メカニズムの解析
------	--	--

アワード

(1) 小児医学研究振興財団アワード

清水 泰岳	国立成育医療研究センター器官病態系内科部 消化器科医員	小児クローン病9例に対するインフリキシマブの使用経験 日本小児科学会雑誌2013;117(1): 97-103
原田 真菜	順天堂大学医学部小児科・非常勤助教	National Japanese survey of thrombolytic therapy selection for coronary aneurysm : Intracoronary thrombolysis or intravenous coronary thrombolysis in patients with Kawasaki disease Pediatrics International 2013;55(6):690-695

(2) 日本イーライリリーアワード

水野 敬	(独)理化学研究所ライフサイエンス技術基盤センター 健康・病態科学研究チーム 基礎科学特別研究員/ 大阪市立大学大学院医学研究科疲労医学講座特任講師	Divided attention of adolescents related to lifestyles and academic and family conditions Brain&Development 2013;35(5):435-440
鈴木 雄一	東京都立小児総合医療センター 心療小児科医員(現:福島県立医科大学・助手)	再栄養により横紋筋融解症をきたした神経性無食欲症における早期兆候の検討 子どもの心とからだ 2013;22(1):76-81



留学体験記



北里大学医学部
小児科学教室
緒方 昌平

University of California, San Diego 留学報告

私は平成22年度イーライリリー海外留学フェローシップのご援助のもとUniversity of California, San Diego (UCSD)に留学させていただきました。サンディエゴはカリフォルニア州の最南端の太平洋に沿岸に位置し、温暖な気候の恵まれた都市です。UCSDは、その中でも海岸と丘陵に面したLa Jollaと云われる学術都市に位置し、周囲にはスクリプス、ソーク、バーナム研究所といった著明な研究施設が軒を連ねています。私は、そんな素晴らしい環境の中、約2年8ヶ月間研究させていただきました。

私は、UCSD Pediatrics, Kawasaki disease research centerのJane Burns教授のLaboratoryで博士研究員として川崎病研究に携わりました。当センターは川崎富作博士により報告された川崎病の認知を、米国及び世界中に広げた草分け的施設で、現在でも川崎病における原因遺伝子解析、免疫学的機序解明、抗TNF α 療法の導入など多岐にわたる分野で研究実績を出しています。私は、そこで2つの研究を報告しました。基礎研究として、川崎病治療薬である免疫グロブリン(IVIG)のIgG Fc部における糖鎖解析を行い、IVIG治療抵抗患者における内因性IgGのシアル化能が、反応例と比較して有意に低下していること報告しました。臨床研究としては、川崎病冠動脈瘤の日米発生率を同じ基準を用いて比較検討し報告しました。

研究の傍らで国を超えた研究者、科学者と出会い、サンディエゴという素晴らしい環境の中で時間を共にできたことは、私にとって一生の宝となりました。今後、ここでの経験を活かし小児医療・医学に貢献できるよう努めたいと思います。今回このような貴重な経験をご支援くださった小児医学研究振興財団にこの場をかりて御礼を申し上げますと共に、今後の益々のご発展を祈願致します。



コロラド大学Glode教授、本人、UCSD Burns教授、清水先生

市民公開講座

— 入場無料 —

こどものアレルギー疾患治療の最前線



日時 ● 2014年9月7日(日) 13時30分～16時30分
場所 ● (独) 国立成育医療研究センター講堂(1階)

共催(予定): 日本小児科学会、国立成育医療研究センター
後援(予定): 厚生労働省、日本小児科医会、
日本産婦人科医会、日本保育園保健協議会、
世田谷区医師会、母子衛生研究会、
日本小児保健協会

詳細は後日当財団ホームページ
(<http://www.jfpedres.or.jp/>)でご案内致します。

プログラム(予定)

座長: 河野 陽一(千葉労災病院 病院長)

講演1: こどものアトピー性皮膚炎 — 副作用のない外用薬の上手な使い方 —
大矢 幸弘(国立成育医療研究センター生体防御系内科アレルギー科医長)

講演2: こどもの喘息 — 見分け方と最新の対応法 —
勝沼 俊雄(東京慈恵会医科大学附属第三病院小児科診療部長)

講演3: 食物アレルギー — 最近の取り組みと食事の進め方 —
今井 孝成(昭和大学医学部小児科講師)

パネルディスカッション

御 礼

賛助会員及び多くの協賛企業・寄付者の皆様のご支援により、平成25年度におきましても、
 若手小児科医師・研究者19名に研究・留学費の支援及びアワードの授与を行いました。
 今年度も昨年に引き続き、市民公開講座を開催し、小児の保健と福祉の向上に努めてまいります。
 皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

当財団の賛助会費は、確定申告の際、所得税控除または税額控除を受けられます。

賛助会員(個人)

※敬称略 五十音順

赤司 俊二	遠藤 文夫	加納 一彦	酒井 規夫	竹広 茂子	早川 依里子	丸山 剛志	横田 俊一郎	吉田 ゆかり
安次 嶺 馨	小穴 愼二	加納 芳郎	坂田 和信	竹村 司	早坂 清	丸山 博	横田 俊平	芳野 信
熱田 裕 裕	老田 礼子	鴨下 和子	佐久間 弘子	田代 雅彦	原 正守	三池 輝久	横谷 進	脇口 宏
兩宮 伸 伸	尾内 一信	河 敬世	佐々木 望	田中 篤	春田 恒和	水谷 修紀	横山 義正	和田 和子
鮎沢 衛 衛	大賀 正一	河西 紀昭	四方あかね	田中 英高	日暮 眞	南沢 享	吉岡 和之	渡辺 信雄
新垣 義夫	大川 洋二	神崎 晋	重松 陽介	田名部 宗之	平尾 敬男	水上 淳子	吉岡 三恵子	渡辺 博
荒川 浩一	大澤 真木子	菊地 陽	柴田 瑠美子	玉井 浩	平林 伸一	宮島 祐	吉田 康子	渡部 礼二
有賀 正 正	太田 節雄	貴田 岡節子	嶋田 泉司	田村 喜久子	平松 公三郎	宮代 英吉		
有阪 治 治	太田 孝男	北中 幸子	志水 哲也	田村 正徳	廣瀬 伸一	麦島 秀雄		
飯塚 幹夫	太田 秀臣	北本 育子	清水 俊明	千田 勝一	廣津 卓夫	村瀬 雄二		
五十嵐 隆 隆	大塚 晨 晨	木野 稔	下条 直樹	長 和彦	福重 淳一郎	村田 要一		
池本 博幸	大西 正純	木村 宏	下村 国寿	長 秀男	福永 慶隆	村山 明男		
石井 正浩	大野 耕策	楠田 聡	重里 敏子	塚田 明子	福山 幸夫	元山 福祥		
泉 達郎	岡田 純一	楠原 浩一	白井 真美	辻 美代子	藤井 達哉	森 哲夫		
位田 忍	岡田 満	工藤 充哉	白石 裕比湖	土屋 與之	藤枝 幹也	森内 浩幸		
井田 博幸	岡部 一郎	工藤 協志	白川 嘉継	堤 裕幸	藤岡 雅司	森尾 友宏		
井田 孔明	岡本 博文	久保 政勝	白幡 聡	鶴澤 正仁	藤木 伴男	森川 昭廣		
板橋 家頭夫	小川 俊一	倉辻 忠俊	末延 聡一	寺井 勝	藤田 弘子	森口 直彦		
市田 路子	沖 潤一	小池 健一	杉本 徹	寺門 道之	藤野 滋	森下 秀子		
逸見 睦心	小口 学	小池 茂之	杉本 久和	寺田 春郎	藤村 正哲	守田 利貞		
伊藤 悦朗	奥山 眞紀子	小泉 晶一	鈴木 敏雄	寺本 貴英	二村 真秀	森田 友明		
伊藤 末志	小栗 絢子	小泉 ひろみ	鈴木 康之	戸荻 創	船戸 正久	森脇 浩一		
伊藤 進 進	小田 慈	河野 幸治	鈴木 英太郎	富沢 修一	船曳 哲典	師井 敏裕		
伊藤 辰夫	小田 切美知子	河野 陽一	須磨崎 亮	富所 隆三	舟本 仁一	八木 信一		
伊藤 保彦	小堂 欣彌	香美 祥二	清野 佳紀	永井 崇雄	平家 俊男	安田 正		
伊藤 雄平	小野 厚	神山 潤	関 秀俊	永尾 尚子	別所 文雄	安田 寛二		
稲垣 由子	緒林 誠	幸山 洋子	関根 孝司	長尾 秀夫	保坂 シゲリ	柳川 幸重		
猪股 弘明	賀川 治美	興 柁 ひと	瀬島 斉	永島 哲郎	保科 弘毅	柳澤 正義		
今井 秀人	梶 俊策	小館 三郎	千阪 治夫	中原 智子	細井 創	籾内 弘		
岩田 敏	加治 正行	児玉 浩子	高島 俊夫	西澤 嘉四郎	堀川 玲子	山内 穰滋		
岩田 力	賀藤 均	後藤 彰子	高橋 協	西間 三馨	前川 喜平	山川 毅		
岩元 二郎	勝部 康弘	後藤 敦子	高橋 孝雄	新田 康郎	前田 美穂	山口 清次		
内田 正志	勝又 正孝	後藤 雄一	高橋 勉	布井 博幸	正木 拓朗	山下 薫		
内田 祐子	加藤 達夫	小林 繁一	滝田 順子	橋本 和廣	松井 陽	山城 雄一郎		
内山 聖	加藤 誠	小林 正夫	田口 哲夫	長谷川 泰延	松石 豊次郎	山田 恭聖		
畝井 和彦	加藤 正彦	駒田 美弘	宅見 徹	羽田野 爲夫	松尾 宣武	山野 恒一		
宇理 須厚雄	加藤 陽子	小山 典久	竹内 義博	服部 元史	松尾 雅文	山登 淳伍		
江口 尚彦	金子 一成	小山 佳紀	竹重 博子	花田 良二	松平 隆光	山本 圭子		
衛藤 隆	金子 堅一郎	斎藤 博久	武知 哲久	馬場 常嘉	松永 伸二	山本 威久		
衛藤 義勝	金原 洋治	嵯峨 六雄		濱本 邦洋	松林 正	山脇 英範		

賛助会員(法人)

※敬称略 五十音順

エーザイ株式会社
 MSD株式会社
 杏林製薬株式会社
 第一三共株式会社
 田辺三菱製薬株式会社
 帝人ファーマ株式会社
 株式会社ナチュラルサイエンス
 Meiji Seika ファルマ株式会社
 医療社団法人 メディカル・プロ
 和光堂株式会社

協賛企業

※敬称略 五十音順

アステラス製薬株式会社
 一般財団法人
 阪大微生物病研究会
 MSD株式会社
 塩野義製薬株式会社
 ジャパンワクチン株式会社
 武田薬品工業株式会社
 中外製薬株式会社
 大日本住友製薬株式会社
 日本イーライリリー株式会社
 JCRファーマ株式会社
 日本マクドナルド株式会社
 ノボルディスクファーマ株式会社
 マルホ株式会社

事務局



公益財団法人 小児医学研究振興財団
 JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B
 TEL (03) 5818-2601 / FAX (03) 5818-2602 e-mail:shouni-iken@jfpedres.or.jp

ホームページ

<http://www.jfpedres.or.jp/>

「子どもたちの世紀」について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫をお願いしてご快諾頂き、総理大臣ご在任中にお書きいただいたものです。

編集後記

ニュース・レター「子どもたちの世紀」第11号をお届けします。当財団が公益財団法人への移行認定を受けて3年が経ちました。お陰様で、財団の中心的事業である研究助成、留学助成、優秀論文表彰等が順調に実施されているに加え、昨年、初めての企画とする市民公開講座を開催し、盛会でした。本年も、人々の関心の高いアレルギーをテーマとして市民公開講座を予定しています。財団がこのような事業を続けていくうえで、小児医療に携わる賛助会員及び企業・団体のご協賛・ご寄付が不可欠であります。さらに社会一般の方々からご支援をいただくことが、これからの発展にとって何より重要と考えております。何とぞ、一層のご支援ご協力をお願いいたします。(理事長 柳澤 正義)